

分類	項目	問題点又は検討・改善すべき事項	分科会等で出された意見	想定される具体的取組	分科会
(1) 地域公共交通のサービス見直し	①ふれあいバスのサービス見直し	ア) 著しく利用者が少ない路線が存在している。 →市財政負担の増大。		・デマンド交通などの、他の移動手段への移行	生活
	②路線バスのサービス見直し	ア) 溝辺地区から国分・隼人方面への交通利便性の向上	・アンケート調査や実証運行等を実施し、実際にどれくらいのニーズがあるのか検証が必要 ・肥薩線の利用者減にならないよう配慮が必要 ・ジャンボタクシー等での対応は不可能な話ではないが、部活動等により下校時間がまちまちで便数が多くなると対応は難しい。 (タクシー事業者) ・バス事業者同士のエリアの問題はあるが、ニーズのある路線について、ジャンボタクシー等での実証運行については検討の必要性があるのではないか。(バス事業者)	・溝辺地区から国分・隼人方面への実証運行(国分高校、中央高校への通学対応便)	生活
		イ) 隼人駅東口へのバスの乗り入れ	・妙見路線バスの便数が少ない。 ・駅東のロータリー整備に合わせ、大隅方面からの空港連絡バス等の隼人駅への乗り入れも検討してもらいたい。 ・駅東を交通拠点の一つとして、位置付けてもらいたい。	・隼人駅東への空港連絡バス等の乗入検討	生活
		ウ) 著しく利用者の少ない路線が存在し、事業者及び行政の負担増となっている。	・利用者は減少し、経費は増加傾向にあり、収支バランスが崩れている。乗務員不足も深刻であるため、減便や路線の統廃合を実施しなければ、バス事業の存続自体が難しい。	・路線バスの利用実態調査を行い、減便、路線の統廃合を行うことにより、持続可能な運行形態への見直しを行う。	生活
	③市内JR駅のバリアフリー化	ア) 市内11駅中4駅(日当山駅、大隅横川駅、霧島神宮駅、北永野田駅)のバリアフリー化がなされていない。		・費用負担をのあり方を明確にしたうえで、年次的に対応	生活
	④公共交通不便地域におけるコミュニティバスの実証運行	ア) 交通不便地域における移動手段の確保			生活
	⑤基幹交通軸間の多様な移動手段の確保	ア) 鹿児島空港～嘉例川駅間のアクセス利便性の向上(国内旅行者、インバウンド対策)	・鉄道の利用促進、霧島市内への観光客の取り込みの観点から、当区間のアクセス利便性の向上が必要。 ・タクシー料金の補助やバスの便数を増やすことで対応できないか。 ・当区間をバスが運行していることを知らない方もいるため、インターネット等を活用した情報発信が必要 ・最近のアンケート結果では2～3人の旅行者はレンタカーが主流である。	・妙見路線バスのダイヤ見直し ・タクシー料金の補助制度等、タクシーの活用について検討 ・バス路線の情報発信の強化	観光
	⑥観光客の移動手段の確保	ア) 牧園・霧島地区(霧島神宮、丸尾温泉周辺)における観光客の移動手段の確保	・霧島国際音楽祭等の大きなイベント時もタクシーが2～3台しかいない。霧島市は県内の3大観光地の一つであるため、県がタクシー事業者への補助を行うなど、乗務員の確保を行うべき。 ・大きなイベントがあると時だけでも、タクシー事業者間で情報共有を図り、待機台数の確保を図れないか。 ・タクシー乗務員が不足しており需要に対する供給が追いついていないため、現在は他エリアへの応援等の対応が難しい状況。 ・このようなタクシー台数が少ない実態を県の観光課や交通政策課と情報共有すべき。 ・時間帯によるものや観光面における一時的需要に既存の公共交通が対応できないものも交通空白と位置付けることができるため、自家用有償運送による対応も検討すべき。	・タクシー業界とのすみわけを考慮しつつ、自家用有償運送の導入を検討する。	観光
		イ) インバウンド等、観光客のスムーズな運賃支払環境の実現	・鉄道、バスでの共通ICカードの導入は多額の投資が必要であるため、困難。 ・スマートフォン等を活用したキャッシュレス化について検討している(バス事業者)	・バス事業者における運賃のキャッシュレス化についての検討	
		ウ) 利用者ニーズに合った周遊観光バスの運行及びPR強化	・周遊観光バスの運行形態の特性上、経路検索サイトでヒットしないという課題がある。インターネットを通じた周知方法について研究したい。 ・市だけではなく、委員の皆様による周遊観光バスのPRもお願いしたい。	・利用者アンケート ・観光客の発地への効果的な情報発信	観光
⑦タクシーを活用した交通弱者支援	ア) 市街地においてもバス停までが遠く、外出に支障を来している高齢者等が存在している。		・タクシー車両を活用したデマンド運行、金券の活用を検討	生活	
⑧地域特性に応じた柔軟なコミュニティバスの運行	ア) 地域のニーズに合った運行形態について検討	・横川、牧園地区でデマンド交通への移行が進んでいない原因はタクシー台数が少ない点であると思うが、デマンド交通専用ドライバーとして地元採用ができないか。	・自家用有償運送について検討 ・デマンド交通専用ドライバーの採用について検討	生活	

分類	項目	問題点又は検討・改善すべき事項	分科会等で出された意見	想定される具体的取組	分科会
(2) 地域公共交通の利用促進	①公共交通啓発チラシや広報誌等によるPR	ア) 知られていないバス路線が多い。		・公共交通啓発チラシや広報きりしまによる公共交通情報の周知	生活
		イ) 高齢者等には情報量の多い時刻表は見づらい		・地域別時刻表の作成	生活
	②交通結節点となるバス停の新設や改善など	ア) 交通結節点におけるバス路線マップの設置、更新、分かりやすいバス停時刻表の設置		・時刻表への路線別の色分け等について検討	生活 観光
		イ) 主要バス停のバス待ち環境の改善（上屋、ベンチ等の設置）		・費用負担をのあり方について検討	生活
	③住民との直接的コミュニケーションによる利用促進活動の実施	ア) 住民ニーズの把握が不十分		・交通空白地域、交通不便地域住民やバス利用者等へのヒアリング調査による移動ニーズの把握	生活
	④公共交通に関する総合的な情報発信・PRの強化	ア) 公共交通に関する情報の一元化		・のったりおりたりマイプラン、かごしまらくめぐりタクシー助成、SUNQパス等の情報発信強化	生活 観光
		イ) 鹿児島空港「観光・総合案内所」や主要な交通結節点における公共交通情報の充実			
		ウ) 外国人にも分かりやすい観光パンフレット等の作成	・飲食店の方が外国人からよく道を訪ねられることがあるが、対応に苦慮している。観光地ごとにナンバリングするなどの工夫が必要。	・観光パンフレット等の作成の際は、多言語化や記号化など、外国人にも分かりやすい工夫を行う。	観光
	⑤モビリティ・マネジメント・プログラムの実施	ア) <b>学生へのお試し乗車券の配布</b>			生活
		イ) <b>既存バス路線を利用したバスツアー</b>		・霧島市内、酒蔵めぐりなどのイベントを実施	観光
	⑥ICTを活用した効率的な公共交通情報の提供の検討・実施	ア) <b>グーグルマップ等で検索してもヒットしない路線が多い。</b>		・経路検索システムにヒットするようなデータ整備	生活 観光
		イ) <b>バスロケーションシステムの導入検討</b>			生活 観光
	⑦公共交通機関の維持・存続に係る取組の強化	ア) <b>バス、タクシーの乗務員の確保</b>	・乗務員不足のため、定年の延長や定年後の再雇用年齢の引き上げなどにより対応している。（バス事業者） ・会社説明会等により乗務員の募集を行っているが、なかなか採用にまで結びつかないケースが多い。このままだと5年、10年先がどうなるか心配である。（タクシー事業者）	・広報きりしままでの特集など（地域貢献、利用者とのふれあい等の観点から魅力発信をするなどの工夫）	生活
		イ) <b>鉄道駅周辺でのイベントの実施による賑わい創出。駅周辺への集客力のある施設の誘致</b>	・イベント等もよいが、恒常的に鉄道を利用していただく施策が必要である。 ・自転車を積める車両をイベントで臨時的に走らせてみるなどの取組も考えられる。 ・JR、地元で連携し、県外向けに事業を展開することも大事である。	・駅前広場や駅周辺でのマルシェや屋台村等の定期的なイベント実施。飲食店、雑貨屋等の誘致 ・鉄道を利用した旅行商品の造成及び情報発信	観光
⑧他機関との連携	ア) 公共交通機関を利用したアクセス案内が不十分な観光施設等が存在している。		・各観光施設ホームページ等における公共交通機関でのアクセス情報の充実（多言語表記）	観光	
	イ) 公共交通機関と旅館・ホテル等との連携		・例) 「鹿児島空港から丸尾温泉まで」バス・タクシーを利用した観光客へ運賃相当額を旅館・ホテル料金から割り引くサービスがある場合、バス利用を証明する方法はないか。	観光	